

◆単元のねらい「井原町が誰にとっても住みやすい町になるために自分たちには何ができるか考え、行動する。」

課題設定

国語科「みんなが過ごしやすい町へ」の学習を通して、身の回りにあるバリアやバリアフリーを探し、高齢者や障害のある方への理解を深める。



井原市の人口や人口ピラミッドを見て、未来の井原市について付箋を使って意見を出し合う。



「未来の井原市は、高齢者の人口が増えそうだ！」ということが分かった。

情報収集

校内でのバリアフリー探し



社会福祉協議会の方へ質問



高齢者・車いす体験

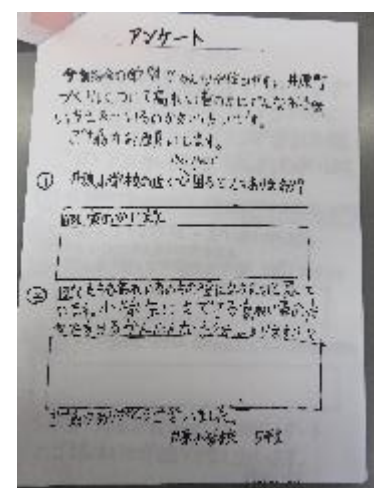


高齢者や障がいのある方は、どんなことに困っているのだろうか？話を聞いたり、実際に体験したりして情報収集しよう。

整理・分析

住みやすい井原市にするために・・・

- ①高齢者の方も住みやすい井原市にしたい
- ②若い人が戻って来なくなる魅力ある井原市にしたい



アンケートで情報収集

- ・中高生
- ・先生
- ・社会福祉協議会
- ・ヘルパー など



アンケート集計、分析



情報を共有



まとめ・表現



- ①高齢者の方へどんな手助けができるか考え、ポスターを作った。
⇒井原小学校の児童へ協力を呼びかけたり、公民館や社会福祉協議会へポスターの掲示をお願いしたりした。
- ②1年生と一緒に井原町の名所「井原堤」のゴミ拾いを行った。
⇒ゴミ拾いをして分かったことをパワーポイントにまとめ、他の学校の人へ紹介をした。

◆成果 (○) ・課題 (△) ・来年度に向けて (☆)

- 自分たちが住む町について調べることで、気付かなかった課題を知ることができ、課題解決に向けて「自分たちには何ができるのか」という考えのもと、活動することができた。
- 学習を通して、次は何を調べる必要があるか、どのような形でまとめるかなどを、児童が主体的に考えて活動することができた。
- 異学年と一緒に活動を行ったが、児童の意欲が上がり、どの児童も積極的に活動に取り組むことができて良かった。
- △新型コロナウイルスによる感染症のため、地域の方と触れ合う活動が行えなかった。調べたことや分かったことを高齢者の方と触れ合う中で、活用できる場があると良かった。
- ☆自分たちで考え、実行する良い学習なので、もっとたくさんの児童が活躍できるような場の設定を行うと良い。